

## 小学校の外国語活動

翻訳・通訳担当 ジョセフ・シャット  
副会長 ジェニファー・シ・パーク  
第6ブロック代表 ブレンダ・ミキニー  
第3ブロック代表 トンヤ・ネフ

### はじめに

平成 23 年から日本全国の小学校では外国語活動が必須化されます。既に多くの小学校では外国語指導助手 (ALT) がチーム・ティーチング活動をしており、またこの新カリキュラムの導入に従って、活動を行う人が増えると期待されています。この報告書は、新しい授業と教材「英語ノート」がチーム・ティーチング活動にどのような影響を与えたのかを検討します。

### 目標

1. JET プログラム参加者の会 (AJET) が行った新カリキュラムと教材「英語ノート」に関する調査の結果を検討する。
2. 新カリキュラムが導入されて以降のチーム・ティーチング活動における変化を検討する。例えば、ALT がどの程度、授業計画を任されているのかを検討するなど。

### 方法

全国 AJET は拠点校として指定された 614 校で現在働いている ALT を調査して、43 人から回答を頂きました。この調査は複数選択の質問と意見を自由に述べる質問を含んでいます。この調査で得た ALT の意見をいくつかを報告いたします。

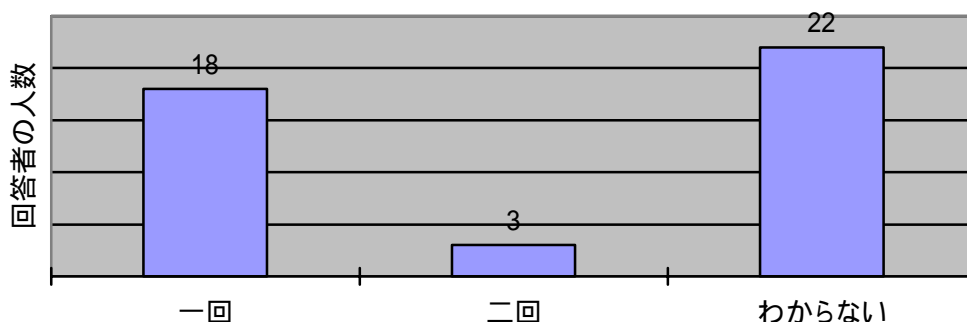
### 調査の結果

外国語活動の必須化については好意的な反応を得ました。ALT による授業の増加は、生徒のコミュニケーション能力の育成に大きな影響を与えています。「担当教員がいつも前向きで、生徒が次のレッスンをとても楽しみにしていると言ってくれる」、また、「打ち合わせの時間が増え、以前に比べて授業に関する意見交換が活発になった」という回答がありました。

しかし、ALT のほとんどがこの新カリキュラムの内容を詳しくは理解していないというのが現状です。小学校での外国語活動が必須になり、小学校教員が英語を教えるということは分かっていますが、時間数や授業内容については把握していません。

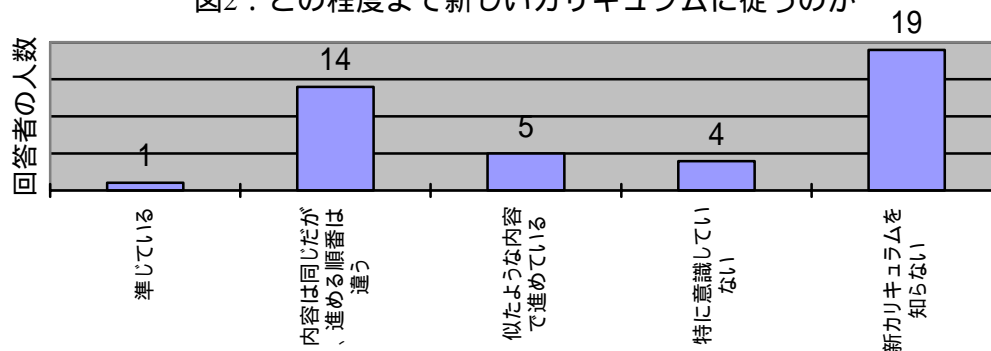
小学校での授業時間数を尋ねたところ、「週に 1 時間」と「わからない」という回答が多く得られました。

図1：授業は週に何回ありますか



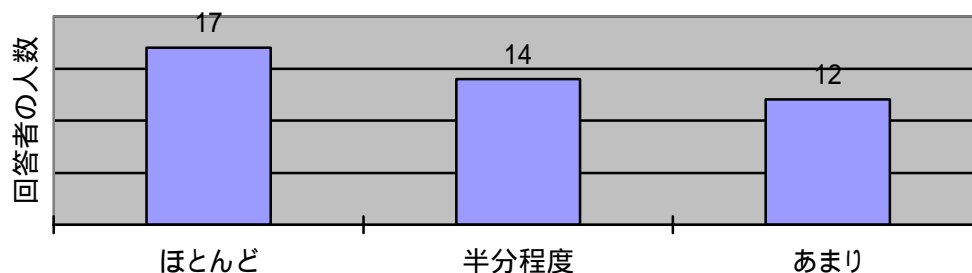
新カリキュラムにどの程度準じて授業を進めているかを尋ねると、ALTの多くは新カリキュラムを理解していませんでした。

図2：どの程度まで新しいカリキュラムに従うのか



新カリキュラムに関して英語の情報がほとんど無いため、拠点校のALTでさえもあまりよく分かっていないようです。しかし一方では、多くのALTが授業計画の作成を任されているようです。

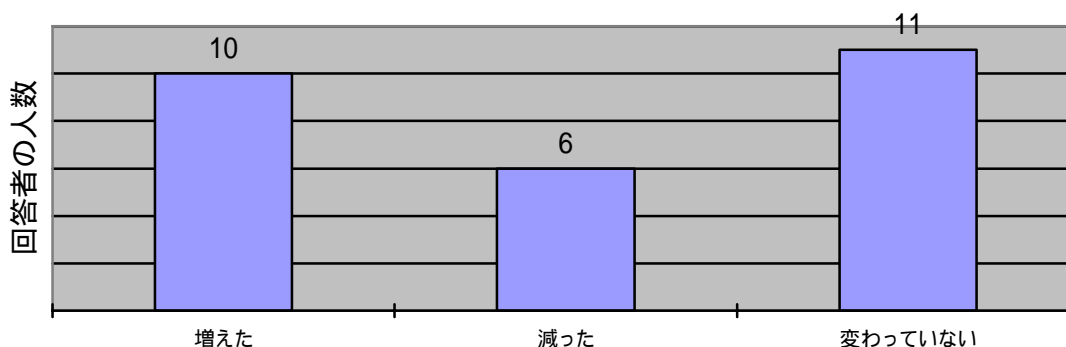
図3：授業計画をどの程度任されているか



回答者の3分の2が、新カリキュラムの内容が分からないまま授業計画の半分以上を任されているということになります。

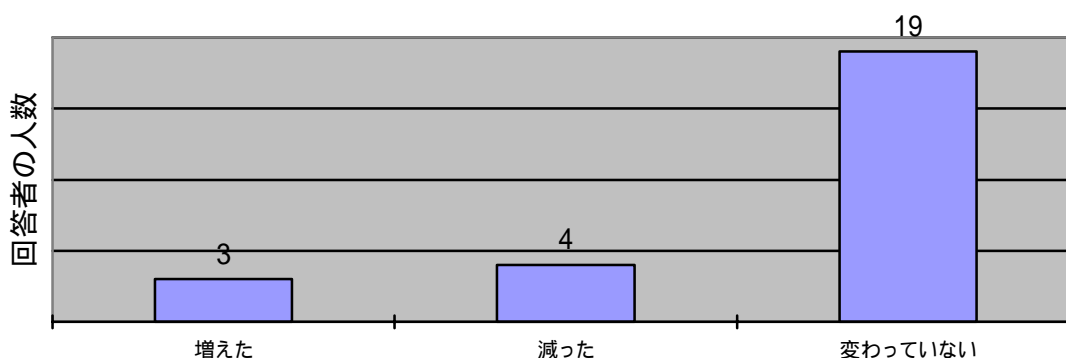
新カリキュラム導入以前から引き続き同じ学校で勤務しているALT 27人に、導入前と導入後での変化を尋ねた結果、あまり変化はないようです。授業時間数においては10人が「増えた」、6人が「減った」、11人が「変わっていない」という回答でした。

図4：授業時間数の変化



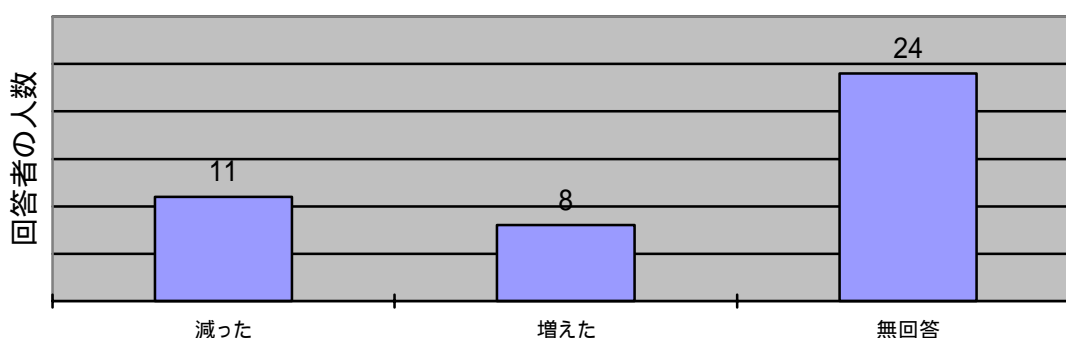
発音練習の取り組みについても、同じような結果が得られました。回答者のほとんどが、導入前と導入後では変化を感じていないようです。

図5：発音練習に取り組む時間の変化



また、授業中の日本語の使用頻度についても、下のグラフが表す通り、特に目立った変化はないようです。

図6：授業中の日本語使用頻度

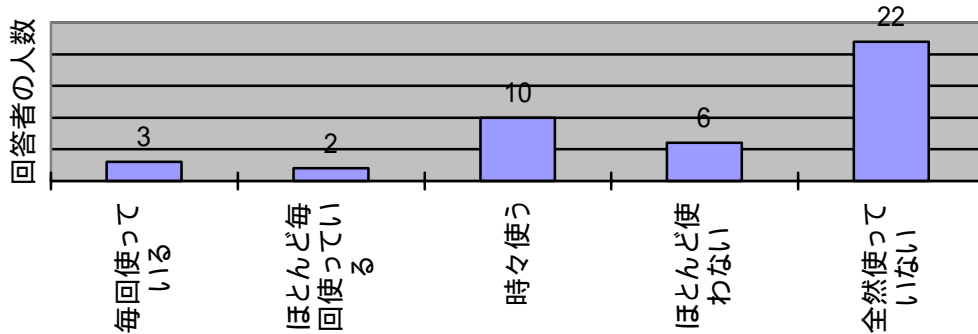


この調査の結果、ほとんどの回答者が、「新カリキュラムを把握していない」もしくは「新カリキュラムに準じて授業をしていない」に当てはまります。このことから、新カリキュラムの導入はまだ、チーム・ティーチング活動に大きな影響を与えていないということが分かりました。

## 英語ノートについて

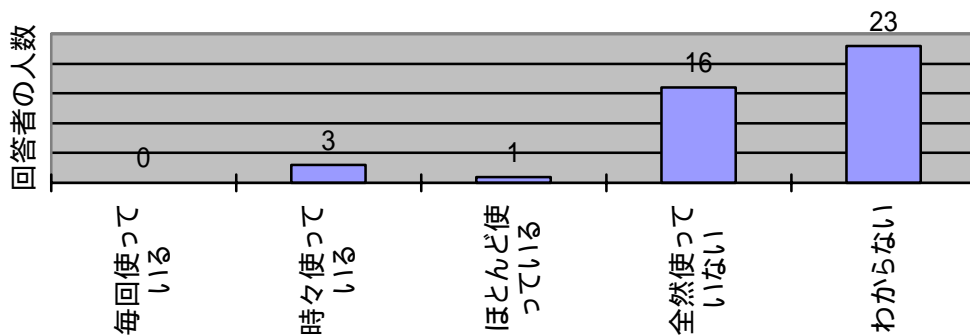
新しい教材「英語ノート」の使用状況について調査しました。まず、英語ノートをどの程度自分の授業で使うのかを尋ねました。回答者 43 人中、21 人が「使っている」、22 人が「全く使っていない」という回答でした。

図7：チーム・ティーチングでの英語ノート使用状況



英語ノートは小学校教員用であり指導書が英訳されていないためこれは予想通りの結果でしたが、教員単独での授業においても、英語ノートがほとんど使われていないようです。ALT に教員単独の授業での英語ノート使用について尋ねたところ、「分からない」という回答の次に多かったのが、「英語ノートを全然使っていない」という回答でした。

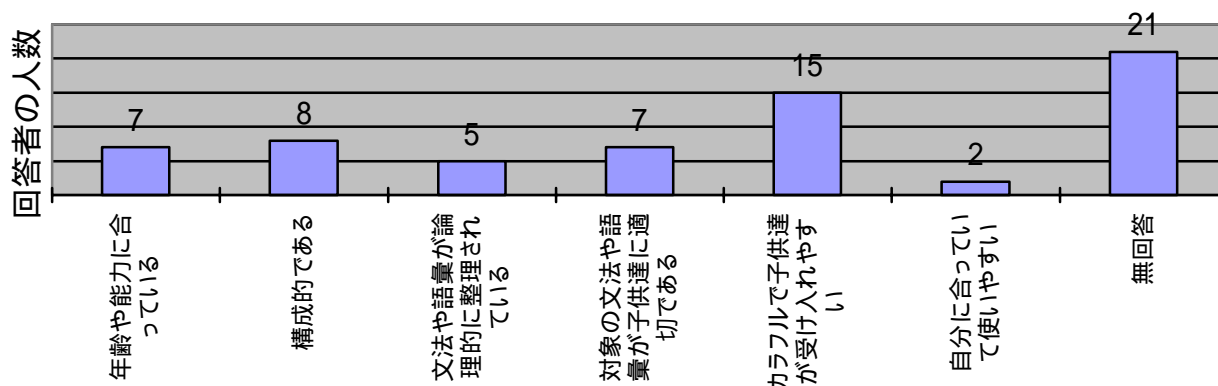
図8：小学校教員単独の授業での英語ノート使用状況



## 英語ノートの内容について

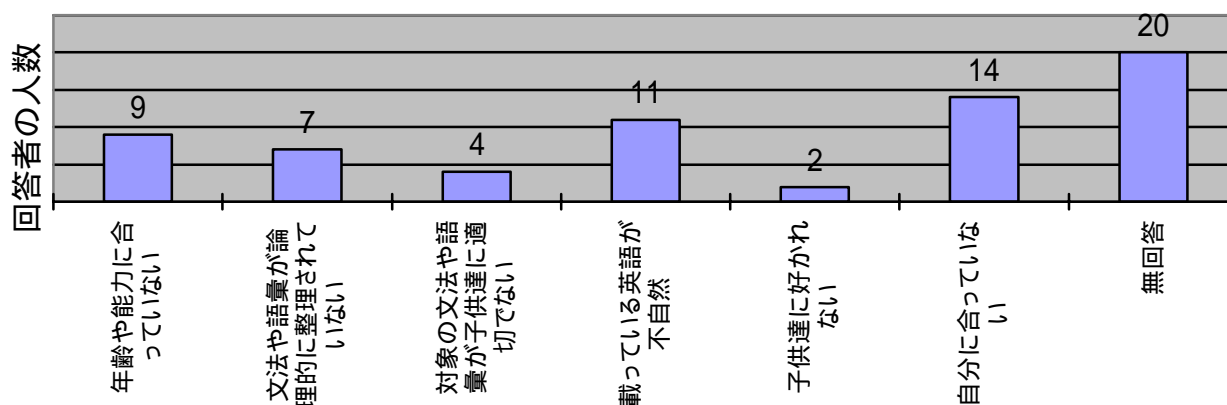
英語ノートは「カラフルで子供が受け入れやすい」ところと、「構成的」な所が魅力のようです。（この質問は複数回答可）

図9：英語ノートの使いやすいところは



また、英語ノートは「英語が不自然」「自分に合わない」というところが使いにくい点のようです。「英語が不自然」という回答で多く挙がったのが、「let's chant」という表現でした。

図10：英語の使いにくいところは



これに加えて、内容の難易度について、「5,6年生にとっては簡単すぎて飽きてしまうのではないかと懸念しているALTが多く、「子供はもっと高いレベルの文法や語彙に挑戦できる」「もっと語彙を増やしてはどうか」という意見もありました。また、「英語を初めて教える小学校教員は英語ノートに頼ってALTのアイデアを受け入れないのではないかと」という不安もあるようです。

その一方、スケジュール作成やお店屋さんごっこ、将来の夢、どこの国に行きたいかななどの活動は良い評価を得ています。また、生徒の能力に合わせて活動を変えているというALTもいます。

小学校教員とALTが使える共通教材であることと、同じ教材を用いることによって、以前に比べて小学校教員とALTの会話が増え、チーム・ティーチングがスムーズに進むようになったという意見もあった。しかし、英語ノートの指導書が英語に訳されていないため、上手く使いこなせないという意見もあったので、もし、英訳された指導書があれば、より効果的に英語ノートを活用できると思われる。

## **結論**

調査の結果、拠点校の ALT は小学校での外国語活動が必須化されたことを嬉しく感じているようです。しかし、英語ノートの内容と難易度は適切ではないと感じている ALT もいます。

新カリキュラムについての英語での情報や、指導書が ALT にもあれば、もっと効果的に外国語活動を進められると考えています。そうすれば、初めて英語を教える小学校教員を積極的に助けることができると思います。

## 文部科学省への質問

1. 英語ノートの改訂は将来的にありますか。
2. 小学校英語活動実践の手引きを改訂する予定はあるのでしょうか。もしあれば、新カリキュラムは反映されるのでしょうか。また、小学校教員に対してチーム・ティーチングの持ち方についての情報提供はあるのでしょうか。
3. 以前、文部科学省は新指導要領導入に伴い ALT の増員を期待されていましたが、小学校教員が単独で授業をするようにカリキュラムが作られています。将来的に、ALT の増員は期待されているのでしょうか。
4. 文部科学省は小学校の外国語活動においての ALT が果たす役割は何だとお考えですか。
5. J E T 参加者が non-JET に比べてメリットを、研修を担当されている文部科学省は何かお考えですか。また、J E T 参加者のやる気を高める方法をありますか。